

COMSi NEWS(こむの事業所通信)

2014.12 第2号

Community Organization Managed for Social inclusion

誰もが働き、自分らしくいきいきと暮らすことをめざします！

NPO法人こむの事業所 就労継続支援A型事業所

この通信は、歳末助けあい愛の持ち寄り運動の施設配分金を受けて作成しました。

清掃事業特集

いつもこむの事業所が支援を頂いている社会福祉法人「宝塚いくせい会」の前事務局長の江川さんに、当事業所の清掃事業を取材して頂き、この事業に対する感想とともに現状や今後の課題について投稿して頂きました。



こむの事業所は、就労継続支援事業A型として事業を開始し、3年を迎えています。利用者である障害者スタッフが18人、一般の就労職員が23人、総勢41人で事業所を運営しています。

こむの事業所の収益事業の柱は、清掃事業、食事サービス事業、駐車場管理事業、こむの市場事業等があり、その内基幹となるのが清掃事業です。

今回は、その基幹となる清掃事業について、現場で働いている障害者スタッフの思いを聞きながら、取材報告をします。

まず、その就労継続支援A型事業所(以下A型事業所)にとって、収益の土台となる事業がしっかり見通しをもって運営できることがとても大切です。障害者スタッフに安定した仕事が確保でき、それと共に給料を払える収益が見込まれることです。

こむの事業所においての清掃事業は、知的障害者が活躍でき給料が保障できる貴重な職場といえます。今年度は、従来からのプレミア宝塚の清掃管理に加え、新たに宝塚市立健康センターの清掃管理事業を受託することができ、障害者スタッフ及び一般就労職員

を増員し、業務量が安定した事業運営を行っています。

清掃事業、特に公共施設の清掃については、市民等の利用にあわせて、清掃終了時間に制約があり、きちんと時間までに清掃業務を終える必要から時間との競争になります。

そのため、早朝7時から業務開始ができるよう、障害者スタッフはそれぞれ自宅またはケアホームから6時40分に現場に集合し、業務の準備にかかります。これから寒い時期に向かい朝の早い大変な職場ですが、休むことがなく一生懸命取り組む姿勢に障害の有無にかかわらず、労働者としての高い意識を感じます。

健康センターの業務は月～金まで週5日、午前7時～11時まで、1日4時間の週20時間勤務体制をとっています。プレミア宝塚も同じく月～金の週5日、午前7時～10時までで、その後11時までこむの事業所の清掃を行い、週20時間の勤務体制が原則となっており、従事する障害者スタッフは雇用保険の対象にはなっていますが、残念ながら社会保険加入の基準を満たすには至っていません。

また、健康センター、フレミラ宝塚ともにチーム制による従事体制を基本としており、健康センターは、一般就労のリーダーが1人に知的障害者2人（いずれも男性）で1チーム、フレミラ宝塚では、リーダー2人に知的障害者4人（男性3、女性1）で2チームを編成して日常清掃を行っています。そのほか、状況判断の必要なフレミラ宝塚の巡回清掃は精神障害者と一般職員が担当する等、それぞれの障害特性を活かした業務分担をしています。

また、これ以外にも清掃業務のアルバイトとして若者就労支援窓口から1人、不登校支援窓口から1人を定期的に受け入れているほか、スポット的に思春期広場、若者就労支援窓口等から数名を受け入れ、“人が働く”ということにチャレンジをしています。働きたいけど自信がない、対人関係に不安が大きいなど、働くことに課題を抱える若者に対しても、働くための一歩となる機会を提供しているこむの事業所の存在は、働くことのハードルが高い若者にとって心強いことであろうと思います。

さらに給料面から見てみるとこむの事業所の理念である最低賃金の保障という点で清掃に従事する障害者スタッフの給料は、短時間労働ではあるが平均月額 70,000円であり、その他に交通費を支給しています。



清掃業務は、施設管理において特に見えないところを整備することであり、環境維持上欠かすことができない業務といえます。

日々同じサービスの提供が求められるものです。きちんと清掃された施設は、利用する人にとっても心地よいことであり、何気なく提

供されるサービスですが、日常的にその業務を担っている方々がいるということに、私たちは感謝の念をもつことが必要ではないかと思います。そういう意味において、こむの事業所では、清掃業務のような環境維持の土台を支える基本的な仕事をきちんとこなせることが仕事の基本であり、次の新しい仕事へのステップにつながるものと考えています。

しかし、清掃業務に携わる障害者スタッフの現状は、週20時間労働のため、午後の時間の使い方が課題であり、概ね週に2～3回午後3時頃まで漢字教室、ストレッチ、フラダンス、アート活動等を余暇活動として実施しています。また、短時間労働の解消を目指し、こむの市場販売業務、えべっさんの面塗り等で試行的に1時間の就労時間延長に取り組んでいる状況です。

事業開始後3年を経過し、試行錯誤の日々から安定した定着に向けた支援として、チーム制を取り入れ、チームのリーダーが基本主体的に職業指導を行い、障害者スタッフに対し何度も繰り返し仕事を指導することで、業務のスキルの向上を図っています。組織的には担当マネージャーが各リーダーを統括し、生活支援は担当マネージャーが行います。

こむの事業所の方針として、基本的には仕事と生活支援は切り離して対応することにしていきます。その理由として、そのことで障害者スタッフもリーダーも仕事に集中することができることと、支援者と職業指導者との役割分担を明確にすることができること、障害者と支援者が過度に依存することがなく、お互いに仕事と割り切ることができること、さらに仕事の質の向上につながることにあります。もちろん、必要に応じてケース会議を開き、課題に対応しているとのことです。

一方で、どこの就労継続支援事業所におい

でも安定した就労と定着を確保していくためには、労働だけでなく、障害者が日常抱える生活上の様々な問題に対応しながら、事業所が直面して取り組まなければならない問題は多々ありますが、こむの事業所は、仕事と支援の責任者は切り離して対応することを現在の方針として取り組んでいます。

今年度から宝塚市立健康センターの清掃業務の受託により業務の拡充を図っていますが、こむの事業所の理念とする最低賃金を保障するとともに、もっと働ける障害者は、週30時間の健康保険、厚生年金に加入ができる労働時間の確保にあわせ、障害者も職員も待遇改善に向けては、仕事量に加え、さらに収益性の高い仕事の確保が最重要課題といえます。

障害者に社会保険を保障していくには、かなりの費用が必要になってくるため、雇用する障害者スタッフの人数にもよるが、それを含めたより一層の増収が求められることになります。しかし、現時点では相当高いハードルと見受けられますが、収益性の高い仕事の創造と受注を目指して、職員の皆さんが営業努力を重ねていますが、増収に成功しているものの、職員の多忙も顕著になり、職員の熱意だけで克服していけるものではなく、就労継続支援事業所が抱える全体的な課題といえるのではないのでしょうか。

高い理念を掲げた事業運営は当然なことであるし、現実と理念の乖離が大きくても、現実とのすり合わせでどこに合わせいくのかという折り合いも事業展開していく上では当たり前のことだと思います。何年か先に着実に一歩ずつ前進していくことが大切であり、“最低賃金を保障するが短時間労働になる”“30時間以上の労働だが最低賃金では

ない”どれがいいということはないと思うし、それぞれの就労継続支援事業所の理念に基づいて運営していると思うので、高い理念を掲げ、それに少しでも近づいていこうとする経営努力はなにより大切なことではないかと取材を通じて感じました。

最後に、清掃事業に従事している障害者スタッフからは、

- お給料はとても嬉しい。貯金をして母にプレゼントをしたい。
- 仕事に慣れると好きになった。
- トイレを交替で清掃する。時間までに仕上げる。汚れが取れると嬉しい。
- 困ったことはリーダーや職員に相談する。
- 仕事を続けていくこと。
- 「ありがとう」と言われたことがうれしい。
- こむの市場でお客さんと直接話すことは清掃とちがって楽しい。

など感想をお聞きし、改めて働く意味を考えたとき、働くということは、障害者一人ひとりが社会に貢献する人間としてそこに



存在し、組織に所属しているという意識を持ち、生き生きと誇りと夢を語り、社会の中で生きているということを感じ、とても嬉しく思いました。

社会福祉法人宝塚いくせい会
前事務局長 江川 八重子

☆今号は清掃事業特集として、この事業の概要や携わっているメンバーたちをご紹介します。現在 2 カ所の委託を受けて。毎日朝早くから頑張っております！

清掃事業の概要

	フレミア宝塚	市立健康センター (市立口腔保健センター含む)
事業実施日時	年末年始を除く毎日 ・ 7:00 開始 ・ 土日祝日もあり ・ 定期清掃は毎月 2 回	土日、祝日を除く平日 ・ 7:00 開始 ・ 定期清掃は両館ともそれぞれ年に 2 回
清掃メンバー	・ リーダー 2 名と障害者職員 4 名が 2 チーム制で実施。 ・ その他、土日や巡回清掃等は一般の職員がローテーションを組んで実施するほか、定期清掃は他の職員 2~3 名が加わり実施。	・ リーダー 1 名と障害者職員 2 名の 1 チームで実施。 ・ その他、定期清掃は他の職員も数名加わり実施。



〇このほか、市内のマンション清掃及び単発的に池の島デイサービスの定期清掃も請け付けています。

清掃事業メンバーのご紹介



中井啓子マネージャー

現在の仕事をするようになって 1 年 3 カ月。当初家族から掃除が苦手なのに清掃の仕事?!と笑われました。子供と過ごす時間が減って心は傷むけれど、仕事を通じてたくさんの人の人生に関わることが出来て幸せです。それぞれに持っている個性は違うけれども、お客様に満足して頂ける清掃が出来るように全員頑張っています。

朝早いので、秋冬はまだ真っ暗な中で出勤ですが、皆ちゃんと遅れずに来て頑張ってますよ！仕事でさぼったり、いい加減なやり方したときは「コラー！」って大声で叱ってますが、へこたれずについてきてくれます。

体調が悪くても、喉が渴いても、自分から言ってくれないことが多いので、いつも気をつけて顔色を見たり、声かけをするようにしています。



山口みちるリーダー



井上薫穂リーダー

ひょんなことから、ここで皆と一緒に仕事をする
ことになって1年半、初めは自分に出来るか不安で
一杯でしたが、今はすっかり慣れてきました。

メンバーの中には、人のことばかり気になる人
や、してもないのに「できました！」と言う人や
色々いて、毎日「人のことはいいから！」「やり直
し！」と叫んでいます。でも、皆とっても純粋で優
しくて、心はいつもふんわりと温かいです。

障害のある方達と一緒に働くのは初めてで戸惑う
ことばかりです。昨日は出来ていたのに…(ToT)。今
日はすご〜い!(^O^)

でも、<(^`^)>(-_-)!(^O^)のくり返しの毎日です。

叱ったり、笑ったり、又教えられたりの日々の中で
少しでも彼達の心に寄り添いたいと心掛けています。
この仕事を通じて彼らと共に成長してゆけたらと願
っています。



井上京子リーダー



中川洋希さん

仕事は楽しいよ！休みの日は食事や買い物
したり、乗り物が大好きなので電車に乗って
色々なところに行くのが楽しみ。ヘルパーさん
と一緒にちょっと遠い水族館や交通博物館
もいきます。こむの市場で大きい声で「いら
っしゃい！」って呼び込みするのが得意なん
だ。みんな野菜買いに来てね！

こむの事業所は沢山お給料もら
えるので、CD が買えるし演歌のコ
ンサートや野球やサーカスに行け
るから嬉しい！好きなことは演歌
とお祭りとだんじりと盆踊り。好き
な歌手は小林幸子、小林旭、坂本冬
実！ お給料は貯金もしてもらっ
てます。



寒川正博さん





樋口哲也さん

お掃除の後えびすの面塗りも頑張ってます！休みの日はテレビを見たり食事に行ったりします。お母さんや弟と一緒に旅行にも行きます。テレビで好きなのはお笑い番組です。好きな食べ物はカレーライス。お給料が沢山もらえるので嬉しいです。お母さんが貯金もしてくれています。

朝早いのはもう慣れたけど、モップがもっと上手に出来るといいです。一番楽しいことは皆とおしゃべりすること。休みの日は洗濯物を干すお手伝いをしたり、お母さんと買いものに行ったりしています。お給料で姪の赤ちゃんによだれかけとか買ってあげるのが楽しみです。



中井理沙さん



武城友和さん

こむの事業所で働いて沢山稼いで、良い暮らしが出来ることが嬉しいです！趣味は日本舞踊やCMの研究。

休みの日は日舞のお稽古に行ったり音楽を聞いたり本を読んだりしています。あと着物を着て京都に出かけるのも楽しいです。自分で貯金もしています。

掃除のリーダーは優しい。好きなことは電車で色々なところへ出かけること、聖子ちゃんのCDを聞くこと、野球を見ること。好きな食べ物は天丼とお寿司！コーラとポテトチップも好き。休みの日は、ヘルパーさんと電車に乗って京都の方へ出かけたり、買いものに行ったりします。



檜垣英治さん

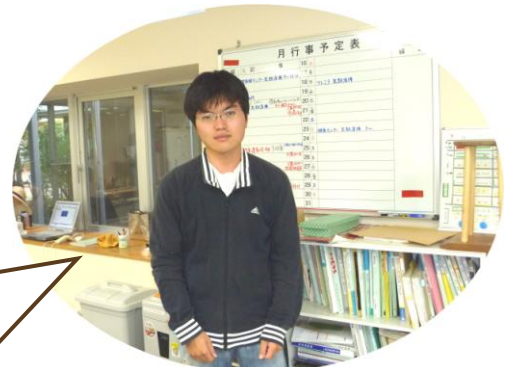


有末将也さん

こむの事業所に来るようになって以前よりコミュニケーションが取りやすくなりました。朝早いのがちょっとしんどいけど、嬉しいのはやっぱり給料が入ったとき。給料で好きなマンガやゲームを買ったり食事に行ったりするのが楽しみです。休みの日は趣味のゲームなどをしたり、寝て英気を養っています。

こむの事業所に来て社会経験を積むことが出来て良かった。同僚で同じ悩みを抱えている人と色々話が出来るのが嬉しい。給料は食べることに遊ぶことに使いますが、自分で計画的に管理して貯金もしてますよ。

休みの日はゆっくり寝たり自転車で遠出したりしています。



阿多潤典さん

難病も抱えているので体力がなく、調子が悪い時は階段の上り下りもしんどい時があります。フレミラの利用者さんから「いつもきれいにしてくれてありがとう」と言って頂き、とても嬉しかったです。

こむの事業所に来て本当に良かったです。



上岡良太さん

こむの事業所で働くようになり、一生懸命仕事に向かう仲間の人たちにふれ、いつも勇気づけられます。

給料をもらい、孫に何か買ってやったり一緒に食事に行ったりするのが今私の一番の楽しみです。



難波美佐子さん

若者の就労支援に携わって—こむの事業所との連携—



台風一過の朝、1人の若者が就職内定の報告に来てくれました。私がこの仕事をして一番嬉しいのは、相談者の方たちから「採用されました！」「合格しました！」という報告を受ける時です。この瞬間は、いつも感動して思わずグッときてしまいます。

この若者の「働きたい」を応援する宝塚地域若者サポートステーション（サポステ）は、昨年の5月17日に開所し、1年半が経過しました。私たちがこのサポステに手を挙げたのは、6年前から実施している「宝塚市若者就労支援事業」がきっかけでした。就労に課題を抱える若者に対し、セミナーや職場体験実習を行い就職実現に向けてサポートするというものです。

高度成長期の若者は強者でした。しかし、バブル経済崩壊後は、安定した雇用が望めなくなり、多くの若者が非正規雇用を余儀なくされ、社会的弱者といってもいい人たちが増えています。しかも、そのような若者を支援する場所が少ないという現実があります。そこで、常設の相談窓口を設けたいという思いから厚労省に事業申請した次第です。

宝塚市の「若者就労支援事業」も厚労省との協働事業という位置づけで引き続き実施しております。今年度も12名の参加者を得て、7月からセミナーを開始しています。10月からは職場体験に向けての実習前トレーニング、現場での体験実習を行う予定です。

こむの事業所と若者との出会いも、3年前のこの事業の体験実習が始まりでした。社会経験の少ない人たちにとって、実際の職場での体験は、社会に一步踏み出すための貴重な経験となっています。

NPO 法人宝塚 NPO センター

宝塚地域若者サポートステーション

総括コーディネーター 橋田てつ子

しかし、受け入れ先が多くないことも事実です。そのような時に、松藤代表にお願いしたところ、快く引き受けてくださいました。そして、何よりも嬉しいことは、この体験実習をした若者の1人が、その後実際に職員として採用されたということです。体験時の様子を見ていただき、その後、その後に声をかけていただいたものです。

現在は、サポステの利用者に対してアルバイトのお話もいただき、彼らは賃金をもらって働くとはどういうことなのか身を持って学ばせていただいています。働く喜びと責任を感じて、顔つきが変わると同時に、体格も逞しくなっているのが印象的です。本当にありがとうございます。感謝しております。

この事業をしていてわかったことは、一つの組織でできることは限りがあるということです。地域の人たちや団体、各事業所、お店等々のご協力があって実現できたことが多くあります。今は、サポステのことを理解してくださる地域の法人からもアルバイトの依頼をいただくこともあり、若者の自立のための大きな力となっています。

こむの事業所はソーシャルファームの理念のもとに、さまざまな取り組みをされています。私たちの相談者の中には、労働市場において不利な立場におかれた人たちが多く、一般就労にいきなり入るのではなく就労体験の場が必要と考えています。この中間的就労の考え方や取り組みが広がっていけば、多くの若者たちが失っていた自信や社会性を取り戻していくことができます。課題はたくさんありますが、できることから取り組んでいきたいと思っております。

阪神淡路大震災 20 年のこれまでとこれから

特定非営利活動法人 こむの事業所

代表理事 松 藤 聖 一

阪神淡路大震災から20年、この災害から私たちは何を学び、何をなしたのか。亡くした多くの命、多くの住まい、その大きな犠牲から大切なことを学んだにもかかわらずそれを忘れつつあるように感じられる。

当時宝塚市役所に勤務していた私が子どもが生き埋めになっているとの知らせを受けて、市役所の同僚と救助に向かった災害現場では、近所の人達 10 数人が必死になって倒壊したアパートのがれきに向かって懸命の救助活動を行っていた。まもなく 3 人の男の子が助け出されたが、がれきの間の盛り上がった壁土から助けを求めるように手だけ見せて、やがて掘り出された母親とその胸元に抱かれていた小1の娘の息は途絶えていた。3 人の子どもを救助したのは近所の人たちで、救助に向かったわずか 2 人の行政職員は無力であった。

市民の命と暮らしを守るために行政はあるのだが、目の前で起きている命の危機に行政は無力であった。その命を救ったのは、自らの被災を省みることなく全力でがれきに挑んだ近隣の人々であり、避難所、仮設住宅での生活は、多くのボランティアによって支えられた。

復旧、復興においては、消防、警察、自治体、医療機関などの専門機関がそれぞれの機能を果たす一方で、世界中から寄せられた義援金と救援物資は、行政が担いきれないところで大きな役割を果たした。災害救助、復旧・復興それぞれの段階でこれらの市民活動が示した力は、

新しい社会のあり方を指し示していたように思う。

それから 15 年後私たちの社会は、東北大災害に見舞われた。ボランティアや救援物資は、しっかりと届いていただろうか。残念なことに、まず聞こえてきたのは、来るな送るなの大合唱である。阪神淡路をはるかに超える大災害が報じられ、直ちに現場に、直ちに救援物資をとという動きが全国であったのだが、現地の要請を受けたマスコミの報道によりこれらの動きは封じられた。

市民活動が十分に機能しきれていないのは災害の時だけではない。要介護や病や失業という暮らしや命の危機についても、公的な支援が届かないところには近隣やボランティアの支援が得られるような仕組みが必要であるにもかかわらず、地域社会にその仕組みが出来ているとは言い難い。

「新しい公共」、「市民と行政との協働」という言葉が語られ、宝塚市でも協働のまちづくりが進められたが、地域社会が暮らしを護る力は未だ小さく、人口減少・高齢社会の危機を脱するための未来への航海図がなかなか描けない中で、ソーシャルビジネスと呼ばれ、社会の様々な課題をビジネスで解決する動きが世界で広がり始めた。そして生活に密着した地域社会の課題を解決するためには、公共サービス、ボランティア地域活動・寄付、ソーシャルビジネス、この三つのセクターが協働する仕組みが必要だと言われ始めている。

設立から5年となるこむの事業所は、事業収入に占めるビジネス収入の割合が50%以上で一般就労が困難な従業者数が一定の割合であることを条件とするソーシャルファームを障害者就労継続支援事業A型という公的制度に依りながら運営してきた。一方事業に必要な施設・備品は公益財団プラザ・コムからの無償貸与を得、仕事の現場、課外活動では多くのボランティアの皆さんに支えられて、今どの事業もフル回転をしている。

しかしそれは、排除のない地域社会を築くための第1歩にすぎない。地域とのつながりを強め、課題解決の基盤となっていくためには、協働の仕組みが具体的に形になっていくことが必要である。そのひとつとしてこむの事業所は兵庫県から認定NPOの仮認定を受けた。

認定は、NPOとしての信用度を高め、寄付者の税の優遇措置が受けられるというものである。しかし、より重要なことは、毎年3000円以上の寄付を100人以上から受けなければならないという認定条件が示すように、多くの市民の支持という土台がしっかりと出来ているかどうかにある。

またその土台は、単に認定のための公益事業の展開ということだけでなく、清

掃サービス、駐車場管理、レストランこむず、施設給食、こむの市場、こむの修理屋などの就労支援ビジネスを支えることにもつながり、持続性を有した福祉コミュニティの基盤の一つになっていかなければならないと考えている。



2014年11月26日
兵庫県庁における仮認定の授与

認定特定非営利活動法人こむの事業所の
賛助会員を募集しています。

年会費 3,000円

特定非営利活動法人 こむの事業所

所在地：〒665-0867 兵庫県宝塚市売布東の町12-9

電話：0797-87-8330 FAX：0797-26-7834

E-mail：jimukyoku@npo-comsi.org

URL：<http://www2.ocn.ne.jp/~comsi>